

令和5年度1学期 始業式 校長講話

改めて、新年度の始業にあたって、お話をしたいと思います。

四月に着任して、私から、校内の先生方をお願いしたキーワードは、「大人を育てる学校」です。皆さんの中には、昨日の地方統一選挙において、初めて成人として、投票を体験した人もいます。

私の考える「大人」とは、「自分で考え、自分で判断し、自分で実行に移す。そして、自分の行動には最後まで自分で責任を持つ」ということです。このことに関する私の思いは、明日の入学式において、新入生だけでなく、皆さん向けでも伝えたいと思います。

今日は、この事とは別に「自由とは厳しいもの」であるということ伝えたいと思います。「自由が厳しい」とは、一見矛盾しているように思うかも知れませんが、そうではありません。「自由」を「○○できる権利」という言葉に置き替えると、人が権利を失ってしまう原因は、大きく二つ。一つは「乱用」、もう一つは「放棄」だと言われています。

例えば、これを普段の部活動に例えてみると、自由、という言葉に甘えて、ルールや周囲の迷惑を考えずに行動をしていると、当然に指導を受けたり、場合によっては、その部活動に所属する権利も失い兼ねません。

反対に、せっかく活動できる権利を持っていながら、それを放棄して怠けてばかりいたり、遠慮して行動せずにばかりいたら、活動できるチャンスを失ったり、場合によっては、活動できる権利自体も失ってしまいます。これは、スマホを持つ自由、生徒会で活動する自由、絵を描く自由、釣りをする自由、そして、勉強する自由あらゆることに言えることです。

今日は、私達が当たり前を考えている「自由」を失わない、「自由」を取り上げられないために、私たち自身が、与えられた権利を行使するにふさわしい行動をしていく必要があること。そうでなければ、自由は簡単に取り上げられてしまうものという、話をしました。皆さんには、この一年、一つ一つの行動に、ぜひ、そのような意識を持って欲しいと考えます。

最後に、皆さんへのお願いです。学校というのは、先生方、教職員の努力と熱意によって支えられていることは、否定できない事実です。一方で、教職員も一社会人、一労働者として、労働基準法などの関係法令に従うことはもちろん、生徒の皆さんにとって、理想の社会人としての見本であるべきと思っています。よって、教職員には、休みの日の勤務や、朝早くからの勤務を私からお願いした場合には、振替をするなど、健康で生き生きと勤務ができるよう考えていますので、生徒の皆さんも、その点をぜひ理解してもらいたいと思います。

つまり、先生たちにも、きちんと休みをとることを大人として認めてあげて欲しいというお願いです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

始業式にあたっての、私からの話は以上です。

令和5年4月10日

校長 中西 正実